

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 3 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700079		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム阿品みどりの家		
所在地	広島県廿日市市阿品四丁目50-33 (電話) 0829-36-4388		
自己評価作成日	令和4年 1月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3492700079-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 4年 3月 2日 (水)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに入居様が心地よく過ごされている。また、家庭的な雰囲気の中で認知症の対応に気を配りながら行事、お散歩等で季節を感じて頂くことを積極的に行っている。小規模多機能の方々とイベント等で関わりがある。コロナウイルス蔓延により、外出は控えてはいるがホーム内行事でその季節毎のイベントを行い、利用者様にその時々季節を感じて頂いている。また、地域行事も現在は中止となっており、再開した際には利用者様も一緒に地域行事への参加をして行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム阿品みどりの家は、瀬戸内海が見える高台で、景色の良い住宅街に位置している。みどりの家の理念（ゆっくり、いっしょに、たのしく）を基に普通の暮らしが出来る空間を目指している。管理者やリーダーを中心に、職員一人ひとりのサービス向上への意欲は高く、常に自らのケア目標を持って取り組んでいる。利用者一人ひとりの生活歴、性格、思いを把握し、その人の立場になって全職員でケアについて考え、小さな事から情報を共有し、散歩、食事の準備、洗濯等職員と一緒に出来る生活リハビリを中心に行い、利用者の笑顔、職員の笑顔で過ごせるよう繋がりを大切にしている。コロナ禍で地域行事、買い物、外食等大きな行事が中止となり、室内での利用者同士の会話、体操、様々なレクリエーションを工夫して行なわれている。家族とは何でも相談出来る信頼関係を築き、職員は笑顔の見える日々を実践しているグループホームです。

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を基本理念とし家庭的な雰囲気の中、居心地の良いホームを目指しながら、入居者様、ご家族との信頼関係作りを大切にしている。	理念は(ゆっくり、いっしょに、たのしく)玄関、フロアに掲示し理念に沿った実践に繋げている。管理者はミーティングの時、日々の関わりの中で管理者が気付いた時には、理念にふれながら職員に伝えている。一人ひとり寄り添う介護を目指し利用者、家族と信頼関係を築いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭り保存会へ加入しており現在は行事が中止の中ではあるが運営推進会議のご案内・利用者様の情報提供等、定期的に交流している。	地域の大きな行事(夏祭り、餅つき大会、清掃活動、防災訓練等)も中止となり、散歩で日常的に近隣の方と挨拶を交わしている。町内会に入っていて、回覧板により地域の情報提供を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご家族の相談事は随時行い、地域の方には地域行事の会合や、運営推進会議などで地域の人からの相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催(現在は資料回覧)し行政、民生委員、消防団も参加されている。問題点、活動状況等を資料にまとめ報告し参加者から助言やご意見を頂き、よりよいサービスが提供できるようにしている。地域の問題や情報も頂いている。	運営推進会議を2ヶ月に1回、民生委員さん4名(地域代表も兼ねる)消防団、家族、地域包括支援センター職員の参加で開催されていたが、現在は書類提出でグループホームの活動、事業所の運営状況、利用者の様子、事故報告等日頃の様子を報告をしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者から、最新の情報を頂いたり困難な事例等について相談できる関係にある。	市役所へは困った事例等相談出来る関係を築いている。地域包括支援センターとは情報交換を共有し連携を図っている。市役所からはワクチン接種を優先的に受ける事が出来る様に、マスク提供もあり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の有人化が実現してなく、全開放には至っていない。今後の課題である。しかし3F、4F、5F自由に行き来できることを心がけている。身体拘束については一定の書式もあり、生命に関わる場合・ご家族が希望される場合は説明し同意書を取り交わしている。その際も身体拘束ゼロへの努力・工夫をする。	身体拘束廃止マニュアルを基に研修を行い、具体的な行為やそれに繋がるスピーチロックやドラックロック、フィジカルロック等拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束適正委員会を3ヶ月に1回開き、事例を挙げ、参加者からの多くの発言が出て、検討し、身体拘束をしない、より良いケアの実現を目指し、身体拘束を正しく理解する事を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年虐待防止のホーム内研修を行っている。またケア向上委員会を作り、虐待への防止を図っている。		

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を立てて入居をされている方もおられる。また「かけはし」との繋がりもあり、必要な方には提案をさせて頂いている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約書には、苦情申し立て方法を明記し、玄関には意見箱を設置している。また遠方に居るご家族にはメールにてご意見をお聞きしている。	家族の面会が中止の為、家族には、「みどりの家通信」と、利用者の様子を写真で送り、家族からは電話やメールで意見や要望を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアミーティング、3F・4F・5F共同の全体ミーティングを月に1回行い、職員の意見や提案を聞き情報やケアの統一を図っている。本社職員も出席し、意見の吸い上げも図っている。	フロアミーティング、全体ミーティングで職員の意見や、提案する機会を設けている。業務に取り入れられる事や改善出来る事を反映している。日々の業務の中で管理者は職員の意見を聞き、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回の考課、面接を行い顧問による職員面談も随時行っている。要望にはその都度聞き対応している。また、法人として顧問面談を取り入れておりメンタルヘルスの面でも毎年面談を行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回のホーム内研修、新人研修、ケア向上勉強会、講演会等に参加することによりレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	廿日市のグループホームの会合や職員の相互研修、情報交換を行っている。		

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思いを汲み取りながら、十分話し合っている。相談し安心、信頼できる関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居見学の時点でご家族の意向・希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションの取れる関係作りを目指している。各フロアに携帯が有りいつでも話し合える事ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりとお聞きしている。その際に生活歴や趣味等をお聞きしアセスメントをミーティングで報告、話し合いをする。そこで関わり方、必要としている支援を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることを一緒にし、満足感、安心感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を育てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、毎月のご様子のお手紙、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、共に本人を支え合える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	携帯電話を持参され自由にご家族に電話をされている方もいる。面会は中止しているが、オンライン面会でご家族との交流を図れるよう支援している。	面会が中止されているが、家族と携帯電話で話されたり、家族が利用者を受診に連れて行く際に面会している。又、玄関口で対面される方、オンライン面会を希望される方の場合も、1日3家族で10分程度としている。入所から初めて会われた方はPCR検査を済ませ、テラスに出てから面会をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支え合いながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認め合っている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつまでも電話等で相談して頂くことができる支援をしている。また、ご家族と出会った際は、声を掛け挨拶をしている。		

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを汲み取りながら、ミーティングで共有するようにしている。ご家族には面会、電話等でお話しをお聞きしている。	日々の生活の中で利用者の希望される事を汲み取り、事業所で出来る希望には応じている。例えば「刺身が食べたい」と言われ、提供されると大変喜ばれ、家事を希望される時等出来る事は、可能な限り意向に添えるように、対応策を考えている。把握が困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人との聞き取りやアセスメントから把握するようにしている。情報提供があった場合もミーティング、連絡ノートにて伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプラン、連絡ノート等を活用し心身状態や生活ペースを把握し、共有するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを活用しながら職員がアイデアを出しケアの共有を図っている。担当者会議ではミーティングの議題で挙げ職員全員で話し合いを行っている。また毎日モニタリングを行い現状に即したケアプランとなるよう配慮している。	毎日のモニタリングで、職員は意見、気づきを共有し、ケアプランの振り返りを通して、目標に合っているか家族、医療関係者、職員の意見を参考に介護計画作成担当者が6ヶ月毎に作成している。利用者に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別に記録をつけ、フロアで共有している。気づきやケアの工夫は連絡ノートに記入し申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム2ユニット、小規模多機能とイベントを共同で行っている。またホーム行事やボランティアが来られた日に行き来する等、日頃から交流を盛んに行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で地域の民生委員の方々の提案や助言を頂き交流をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の定期往診と状態変化時の主治医への連絡を随時行っており、緊急時も迅速な対応ができています。ご家族の希望で専門医へ受診している。その際はご家族が付き添って受診する。	かかりつけ医の往診は月2回で受診され、状態の変化があればその都度連絡をしている。現在タブレットで(みどりの家用のインプット)細かく状態の変化を送り、かかりつけ医からの指示を直ぐに受ける事ができる。24時間体制の医療を受ける事が出来ている。歯科医訪問は週1回、その他専門医受診は家族の協力で受診されるが、職員同行で受診される場合もある。日々の健康管理は看護師が適切に支援している。	

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員とかかりつけ医に状況をその都度報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院のMSWと連携を取り密に連絡を取っている。職員も訪問し状況の把握、相談、情報交換をしている。ご家族とも相談し情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医と十分な連携を取りながら対応している。またご家族、ご本人との考え、方針を汲み取りながらその都度話し合いをし思いを確認している。	契約時、重要事項を説明し、重度化された場合、事業所で出来る事を説明し同意を得ている。実際その時が来た場合、その都度、家族の意向を確認し医師の指示により、看護師、職員が連携をとり、事業所で出来る支援をしている。特養入所、病院等へ移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の職員の連携はよくとれている。繰り返し研修する必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っている。地域の民生委員の方々にも参加していただいている。地域の消防団との連携を取りより地域の協力体制を築いていきたい。	消防署と連絡を取り年2回の避難訓練を行い、夜間の火災を想定した、通報訓練、避難訓練、消火器の使い方、水消火器使用を行い避難経路、の確認を利用者と一緒に実施している。地域民生委員、地域消防団の協力も得ている。	職員の入替わりが有り、夜間の災害対策の周知がまだ不足しているので、今後、研修と実務訓練を周知される事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修にて職員に徹底できるようにしている。ご本人の尊厳を傷つけない声掛けをしている。入居者様の情報を他の入居者様の前で話さないようにしている。	人格尊重、プライバシー確保について研修で徹底している。トイレ誘導、入浴の際の配慮や声掛け、和やかな場の中で、傷付かない会話、お互いにプライバシーを大切にしよう職員は声掛けをする等内容をその方に合った空気に変えている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思い出の場所や自宅へ行ってみたい、誕生日プレゼントの希望をお聞きしたり、自己決定できる場を日頃から心掛けている。		

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、ご本人が何をしたいかを大切にしている。また1日どのように過ごしたいのかをお聞きするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回の訪問美容師による、カット・パーマ・毛染め等希望を聞いて行っている。コーディネートや季節感の服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が献立を考え、できる入居者様は野菜の皮むき、カット、配膳、盛り付け、味見等を手伝って頂いている。食事はできる限り職員、入居者様と一緒に談笑しながら食べている。	職員は、利用者の希望を聞き、献立を立て3食手作り料理を提供されている。行事食は年間を通して、おせちからクリスマスまで作られている。おやつ作りで、ピザ、たこ焼き、ケーキ等楽しみにされている。希望される場合刺身、お寿司等も取り寄せ喜ばれている。職員と一緒に食事準備、片付けを楽しんで行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を毎日の記録表に記入している。嚥下状態の悪い方はトロミをつけたり、キザミ食、ミキサー食を提供し、必要な栄養確保に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝・昼・夕食後、本人用の歯ブラシで口腔ケアをし、ご自分で出来ない方は援助する。就寝時は義歯ケースの中に義歯を入れ洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心を傷つけない様、声掛けをトイレを促している。排泄チェック表等を活用し排泄パターンを把握し誘導している。	利用者の排泄状況を把握し、利用者の中には、自立されている方もいる、トイレ誘導を行う時、利用者の一人ひとりのサインを見逃さないよう、トイレで排泄出来るようにしている。布パンツ、パット、紙おむつ等それぞれ状態に合った選択が出来る様にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	身体を動かしたり水分補給に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴を目途に、個々に応じた支援を行っている。また、入浴拒否の強い方等には誘導への声掛けを職員を変えながら行って入浴して頂いている	入浴は週2回入られるよう支援をしている。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。入浴拒否される方もあり、日にちを変えたり、職員を変えたり出来るだけ気持ちの良い入浴になるよう工夫している。	

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のペースで生活習慣や状況に応じて休んで頂いている。空調管理にも気をつけながら快適に休んで頂いている。眠れない方には、お茶やホットミルクを飲んだり、お話をされたりして過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	かかりつけ医、薬局と連携を取りながら細かく観察し伝達している。薬の用法、用量が変わった際は申送り、連絡ノート等にて職員同士迅速に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご家族、ご本人から趣味、嗜好品、楽しみ事を日々の会話の中でお聞きし体調に合わせ実現できるように努めている。他のフロアに行ったり洗濯物を干す等、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園への散歩や屋上散歩、感染下の中、外出支援は思うように出来てはいないが、ご自宅を見に行ったり公園へのドライブ外出等、密にならない様心掛けながら行っている。	利用者の希望を聞き、外食や買い物等、支援していたがコロナ禍で、外出支援が出来なくなり、近隣の公園、屋上の眺め良い場所で散歩や日光浴・外気浴をしている。又、畑の好きな人は畑に、自宅を見に行く等ドライブに出かけ、車窓から季節を感じて頂き、気分転換を図るように支援している。春になったら花見ドライブが予定されている。	コロナ禍で、外出が困難であり現在出来ていませんが、コロナ禍終息の折には、ショッピングセンター・ドラッグストアーに買物やドライブでお花見・紅葉狩り等に出かける事が、実現出来る事を期待しています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでは、所持金は預からない事としている。本人様の買い物等は、一旦立て替え、まとめてご家族に請求する形をとっている。所持することで安心感のある方にはご家族了承のうえ自己管理して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方が居る。ご自分で出来ない方はお手伝いをさせて頂いている。職員に定期的に手紙を書いてくださる入居者様もおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂くように季節の花や飾りつけをし、居心地よく過ごして頂いている。また、清潔であるよう掃除を徹底し行っている。廊下、フロア内には外出時、イベント行事時の写真を掲示している。	リビングは明るく、ソファ、テーブル、テレビが置かれ利用者、職員で作られた季節の作品や写真が飾りつけている。空調、照明は常に快適な状態を保たれている。利用者同士が思い思いに過ごされる共同空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きな音楽番組を見られたり、ぬり絵や脳トレクを行ったりと共用空間で出来る限り、思い思いに過ごせる空間を提供している		

グループホーム阿品みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりと聞きし、馴染みの使い慣れた物を置き居心地のよい空間作りを心掛けている。また入居者様が安全に過ごせるよう整理整頓に気をつけている。	利用者、家族と相談、使い慣れた生活用品を自由に、持ち込まれている。タンス、テレビ、机、椅子、ポータブルトイレ、家族写真、時計、鏡台、携帯電話、ぬいぐるみ等思い思いに、自分の部屋として居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ベッドセンサーの使用や手摺、エレベーター等があり安全且つ快適に過ごせる様にしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム阿品みどりの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム阿品・みどりの家

作成日 令和 4年 3月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に、利用者が安全に避難できる誘導が（特に夜間）全職員には身につけていない。	夜間想定避難訓練を実施。訓練後には避難器具の場所や各ユニットの一時避難箇所を改めて再認識してもらう。	職員の入れ替わりもあり、新入職員を対象にした避難訓練・避難器具の設置個所を教える。	1年
2	49	感染禍の下、思うように外出・外食支援ができていない。	感染が終息するまでは、致し方ないと思う。終息後には外出や外食へもお連れして行きたい。	ホーム内での交流・近隣へのお散歩・ドライブ等、現況でできることを行っていく。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。